

令和 7 年 シラバス

第 1 学年 普通科 研志コース（探究）

科目名	現代の国語	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探求	
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	言葉の特徴や役割，表現の特色を理解した上で語句や漢字の知識を増やし，文章の中の情報の関係について理解を深めることが出来る。	論理的な文章や実用的な文章を目的や場に応じて適切に読み，資料を引用しながら自分の意見や考えを表現することが出来る。	学習した内容を進んで言葉や文章に表現し，コミュニケーションに活用しようとする。言語文化への関心を深め，向上を図る。
	A わかる	言葉の特徴や役割，表現の特色を理解した上で語句や漢字の知識を増やし，文章の中の情報の関係について考えることが出来る。	論理的な文章や実用的な文章を目的や場に応じて読み，資料を引用しながら自分の意見や考えを持つことが出来る。	学習した内容を進んで言葉や文章に表現し，コミュニケーションに活用しようとする。言語文化への関心を深める。
	B できる	言葉の特徴や役割，表現の特色を理解した上で語句や漢字の知識を増やすことが出来る。	論理的な文章や実用的な文章を読み，自分の意見や考えを持つことが出来る。	学習した内容を進んで言葉や文章に表現しようとする。言語文化への関心を持つ。
	C する	言葉の特徴や役割，表現の特色を理解した上で語句や漢字の知識を増やそうとしている。	論理的な文章や実用的な文章を正しく読むことが出来る。	授業を受ける準備ができている（教材，服装）。学習活動に参加し，課題に取り組むことができる。
評価方法		授業時の観察，定期考査，課題確認テスト（小テスト），漢字テスト	授業時の観察，定期考査，課題確認テスト（小テスト）課題レポートなど	授業時の観察，定期考査

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『伝え合い（コミュニケーション）に大切な事』『届く言葉，届かない言葉』『わかりあえないことから聞く力』『情報は作られる』『ひとまず，信じない』『情報を編集し，的確に発表する』『人が死なない防災』
2 学期	『読むことのレッスン』『水の東西』『コインは円形か』『中身当てクイズ』『読み比べる一海ガメの無念』『折々の言葉』
3 学期	『檻の中の街』『小さな哲学者』『ありのままの世界は見えない』『ものとことば』

何で学ぶか(教材)

新現代の国語 三省堂
新現代の国語 三省堂 学習課題ノート

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義，グループワーク，ペアワーク，課題

科目名	言語文化	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。また、言葉の側面から日本の文化について考える力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える	○言葉の大切さ、言葉の価値について、身近な例を挙げながら考えを深めている。	○本文全体の趣旨をとらえ、具体例の役割や比喩的な表現の効果など、文章表現を味わっている。
価	A わかる	○季語という概念や、その大切さを理解している。 ○日本独特の自然観や感性についてを理解している。	○日本語の表記の特色と外国語の特色について、ほかの例を考えたり調べたりしようとしている。
基	B できる	○日本語と日本人の特徴について、筆者の考えを読み取っている。 ○「うつろう」ことの美しさについて、的確に読み取っている。 ○日本の美意識についての筆者の主張を、第3段落から読み取っている。	○日本の伝統的な自然観や美意識について筆者の主張をとらえることに興味をもち、季語や日本独特の自然の味わい方に対して関心をもっている。
準	C する	○本文中の季語の定義を確認させる。 ○「言語文化の窓」を参照させ、自然を表す日本語の豊かさに気づかせる。	○「言語文化の窓」を参照させたり、本文以外の身近な例を出し合わせたりしながら、興味を引き出す。
評価方法	○観察, ワークシート, 小テスト	○観察, ワークシート, 小テスト, 定期テスト	○主体的に学習活動に参加し, 学習意欲を持つ。

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	【現代】 ことばの森を育てよう、季節の言葉と出会う 『とんかつ』， 漢字と仮名の使い分け 【漢文】 訓読の決まり／格言 【その他】 小テスト、作文コンクール、漢字テスト
2 学期	【現代】 『羅生門』 『祖母が笑うということ』 【古文】 『伊勢物語』 『平家物語』 【漢文】 『蛇足』 『論語』 【その他】 小テスト、作文コンクール、漢字テスト
3 学期	【現代】 『夢十夜』 『形』 【古文】 『奥の細道』 【その他】 小テスト、作文コンクール、漢字テスト

何で学ぶか(教材)

「新編 言語文化」大修館書店、学習ノート 各種プリント，ワークシート

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループワーク ペアワーク 発表

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

いつ、何を学ぶか(学習内容)

何で学ぶか(教材)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

調べ学習・グループ学習

タブレット教材

科目名	地理総合	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	地理への興味・関心を持ち、主体的に学習する態度を育て、現代世界についての地理的な認識をいっそう深めるとともに、国際社会における立場と役割を考えさせる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その過程や結果を適切に表現することができる。	現代世界の地理的な諸課題に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組む追及している。
	A わかる	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
	B できる	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項を理解している。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	現代世界の地理的な諸課題を理解し、その知識を身につけている。	過去の出来事が、現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし、授業に意欲的に参加し発言することができる。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	地図と地理情報システム 結びつきを深める現代世界
2 学期	生活文化の多様性と国際理解
3 学期	地球的課題と国際協力 自然環境と防災 生活圏の調査と地域の展望

何で学ぶか(教材)

帝国書院『新地理総合』
帝国書院『高等学校 新地理総合ノート』
帝国書院『新詳高等地図』
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習

科目名	数学 I	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 S A B C	使える 公式や考え方を応用問題へ活用できる。	問題の意味が理解でき、問題間の繋がりを部分的にでも体系的に捉えることができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察することができる。
	わかる 習った問題に対し、計算やグラフを用いて問題を解くことができる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題を解決できる。
	できる 例題を見ながら、問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	する 簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備をしており、授業中、教員の指示に従い取り組むことができる。
評価方法	- 授業 - 定期考査 - 確認テスト - 小テスト	- 授業 - 定期考査 - 提出物 - 小テスト	- 授業 - 提出物 - 定期考査等受験態度

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 実数 1次不等式 集合と命題
2 学期	2次関数とグラフ 2次関数の値の変化 2次方程式と2次不等式 三角比
3 学期	三角形への応用 データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『新編 数学 I』 数研出版『新課程 パラレルノート数学 I 標準』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 スタディサプリ (オンライン授業)
--

科目名	数学A	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力の育成，さらに普段の生活に帰着させることを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 S 使える A わかる B できる C する	公式や考え方を応用問題へ活用できる。	問題の意味が理解でき，問題間の繋がりを部分的にでも体系的に捉えることができる。	粘り強く考え数学を活用し，問題解決の過程を振り返り考察することができる。
	習った問題に対し，計算やグラフを用いて問題を解くことができる。	事象を論理的に考察し，問題を解決できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題を解決できる。
	例題を見ながら，問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い，過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	簡単な計算や，目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備をしており，授業中，教員の指示に従い取り組むことができる。
評価方法	- 定期考査 - 確認テスト	- 定期考査 - 提出物の状況 - 確認テスト	- 授業態度 - 提出物の状況 - グループ学習の活動

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 場合の数と確率
2 学期	第2章 図形の性質
3 学期	第3章 数学と人間の活動

何で学ぶか(教材)

数研出版『新編 数学A』 数研出版『パラレルノート 数学A』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 タブレット教材 スタディサプリ (オンライン授業)
--

科目名	科学と人間生活	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解することにより、科学に対する興味・関心を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 S A B C	使える 生活から課題を発見し、考察することができる。	現象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	任意提出物を確実に提出する。 グループ活動において、主体的に役割を果たす。
	わかる 身の回りの現象を的確に捉え、適切な知識を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	課題やワーク等を期限内に提出する。 任意提出物を積極的に提出する。 授業中に積極的に発言する。
	できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	課題やワーク等の提出物を遅れてでも提出する。 グループ活動に意欲的に参加する。
	する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	教材等の準備ができています。 私語や居眠り等をしない。 ノートやワークをきちんと書いている。
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 編 生命の科学
2 学期	2 編 物質の科学 3 編 光や熱の科学
3 学期	4 編 宇宙や地球の科学

何で学ぶか(教材)

教科書（東京書籍 科人(701)）
ワーク（東京書籍 ニューサポート）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース・学年	研志 コース	探究
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	わかる A 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	できる B 基礎練習を正しくおこなう、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	する C 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館 新高等保健体育教科書
大修館 新高等保健体育ノート
ICT機器

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習
実戦練習（ゲーム）
チーム練習・戦略会議
iPadによる分析

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	研志 コース	探究
目 標	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準 使 え る わ か る で き る す る	保健に関するさまざまな分野から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であることがわかる。	健康についての思考を深め、自身の現状を適切に把握することができる。	日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	保健に関する基礎的な知識やヘルスプロモーションの理念を理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	・授業 ・定期考査 ・確認テスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷～ 8 生活習慣病の予防と回復
2 学期	第1章 現代社会と健康 9 身体活動・運動と健康～ 17精神疾患への対応
3 学期	第2章 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因～ 6 日常的な応急手当

何で学ぶか(教材)

大修館 新高等保健体育教科書 大修館 新高等保健体育ノート プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 ICTを活用した調べ学習

科目名	書道 I	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志	コース
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図る。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	漢字・仮名の書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身につけ表している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
	A わかる	漢字・仮名の書の古典の、書風と用筆・運筆の関係を理解している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもとうとしている。
	B できる	漢字と仮名の調和した表現の基礎的な技能を身につけ表している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化についてその価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを理解しようとしている。
	C する	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解している。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもとうとしている。
評価方法		提出作品 学習シート 考查	提出作品 学習シート	提出作品 学習シート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 漢字仮名交じりの書の学習 I ・ 漢字の書の学習(楷書)「孔子廟堂碑」 ・ 漢字の書の学習(楷書)「九成宮醴泉銘」 ・ 漢字の書の学習(楷書)「雁塔聖教序」
2 学期	・ 漢字仮名交じりの書の学習 II ・ 漢字の書の学習(楷書)「顔氏家廟碑」 ・ 漢字の書の学習(楷書)「牛橛造像記」 ・ 篆刻の学習 ・ 漢字の書の学習(行書)「風信帖」
3 学期	・ 漢字の書の学習(行書)「争坐位文稿」 ・ 仮名の書の学習 ・ 漢字仮名交じりの書の学習 III ・ 学年末考查

何で学ぶか(教材)

教育図書『書 I』 同 プライマリーブック 補助プリント 学習シート パワーポイント等の映像資料
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業(講義・実技) グループ学習(相互批評等) 鑑賞学習

科目名	美術Ⅰ	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース	
目標	幅広い美術活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを旨とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	表現：自己のイメージを表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられ、さらに思考することができる。	全ての学習を通して積極的であり、美術表現を工夫することができる。
	A わかる	対象や事象を捉える造形的な視点と意図に応じて表現方法を創意工夫する関係を理解している。	表現：形、材質などの表現ができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられる。	個人制作及びグループ学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	対象や事象を捉える造形的な視点の基礎的な表現技法を身につけている。	表現：構図を考え表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝えられる。	表現・鑑賞の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	日常生活の美術の効用や美術の歴史、文化について理解することができる。	表現：関心を持ち表現することに喜びを感じる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持つことができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		提出作品 ワークシート 考査	授業 提出作品 ワークシート 考査	授業 ワークシート 考査

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	オリエンテーション なりきり自己紹介 色彩構成／グループワーク 対話による美術作品鑑賞
2 学期	ビジュアルデザイン表現 写真表現 映像表現 対話による美術作品鑑賞
3 学期	絵画表現技法 表現やデザインを用いた作品制作 学年末考査 対話による美術作品鑑賞

何で学ぶか(教材)

高校生の美術1（日本文教出版）／ワークシート／パワーポイントなどの映像資料 副教材：スケッチブック、絵具（中学校で使用したもので良い）／それぞれの題材や活動で必要な材料は学期ごとに購入します。
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業（講義・実技） グループ学習（作品制作・鑑賞など） 鑑賞学習 ※chromebookを用いたICT授業も行いますので必要に応じて持参してください。

科目名		音楽Ⅰ	授業時数	週 2 単位	1 学年
			コース	研志 コース	
目 標	音楽に対する興味・関心を持ち，意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	読譜能力を身につけ出来る限り楽譜に階名を書かなくても歌唱・リコーダーの演奏ができる。	楽曲のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
	A わかる	腹式呼吸やリコーダーの運指を覚え、歌唱・リコーダーの演奏ができる。	ハーモニーを感じながら曲想に合った表現ができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	単旋律の歌唱とリコーダーの基礎的な奏法を身につけることができる。	メロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	歌唱・演奏するための基礎的な音楽理論を理解することができる。	音楽に関心を持ち、歌唱や楽器演奏に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	音楽理論の基礎「五線」「音符と休符」 歌唱「校歌」 アルトリコーダー「主は冷たい土の中に」 実技テスト
2 学期	音楽理論の基礎「音名」「階名」 歌唱「翼をください」 アルトリコーダー「エーデルワイス」 実技テスト
3 学期	音楽理論の基礎「反復記号」「楽語」 歌唱「少年時代」 アルトリコーダー「魔弾の射手」 学年末考査・実技テスト

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	英語コミュニケーション I	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	研志 コース	探究
目 標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。
	A わかる	多様な場面における言語活動に積極的に取り組むことができる。	相手が表現する内容を整理しながら正しく捉えることができ、内容を的確に理解することができる。
	B できる	事物に関する紹介や対話などを見聞きし、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な英文を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを理解できる。	できないところを人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすることができる。	授業・提出物・プレゼンテーション
		授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Get Ready! 1～4 Lesson 01 What Did You Do in Japan? Lesson 02 When Do You Feel Happy? Lesson 03 Onigiri Goes Overseas
2 学期	Lesson 04 Pictograms Lesson 05 Morita Yuko Lesson 06 Convenience Stores Lesson 07 High School Aquarium
3 学期	Lesson 08 Smart Farming Lesson 09 Food Waste Lesson 10 William and His Windmill

何で学ぶか(教材)

COMET English Communication I COMET 基本文法定着ドリル COMET 英単語

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	論理・表現 I	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	パラグラフの構成に基づいて情報や考えなどをまとめ、文章を書くことができる。	聞き手や目的に応じて、紹介するトピックを決め、原稿書いたり発表したりすることができる。	積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	読み手や目的に応じて、つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。	自分のことや与えられた課題について書いたり即興で話したりすることができる。	間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。
	モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。	学んだ文法を使って、文章を簡潔に書くことができる。	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。
	学習した文法を理解し、知識として定着している。	例文を英語らしい発音で発話することができる。	授業を受けるための準備ができている。
評価方法	小テスト・定期考査など	定期考査・パフォーマンステストなど	授業中の取り組み・課題提出など

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	L1 Let's talk about Ourselves L2 School Life L3 The arts
2 学期	L4 Food and Culture L5 Welcome to Our Town L6 Traveling Abroad L7 Sports
3 学期	L8 Everyday Technology L9 Take Care L10 SDGs－Take Action!

何で学ぶか(教材)

三省堂 MY WAY Logic and Expression I ワークブック サブノート 文法補助教材
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習 ペア学習・グループ学習 ICTを活用した教材

科目名	家庭基礎	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，家庭生活の充実向上を図る課題解決能力と実践的な態度を育て，多様な活動による人間的成長を目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけて、実践することができる。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し、課題解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけ、表現することができる。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して課題解決に向け主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
	A わかる	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し、課題を見出すことができ、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	課題解決に向け、改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる	家庭生活の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を見出すことができる。適切に判断する能力を身につけている。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら課題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	家庭生活の基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	人とかかわって生きる 家族分野 保育分野 社会福祉分野
2 学期	生活をつくる 食分野 被服分野 住居分野
3 学期	消費者として自立する 消費行動 経済分野

何で学ぶか(教材)

図説家庭基礎 （実教出版） 図説家庭基礎学習ノート（実教出版） プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習

科目名	情報Ⅰ	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
	A わかる コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけている。	問題の発見・解決に向けて情報収集と情報技術を身につけている。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる コンピュータやデータの活用について理解している。	身近な問題について、問題解決のプロセスを当てはめて考えることができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 情報やメディアの特性を理解している。	自分の問題を解決するためのプログラムを考えることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 定期考査 提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報で問題を解決する 情報を伝える
2 学期	コンピュータを活用する データを活用する
3 学期	活動して提案する

何で学ぶか(教材)

東京書籍 新編情報Ⅰ
東京書籍 新編情報Ⅰ 資料ノート

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
